



ごみ減量へ！ がんばる 自治体

ごみ非常事態宣言から20年 「環境首都なごや」を 目指して！

名古屋市環境局減量推進室 主査 谷川浩之

今から20年前、名古屋市ではごみ処理量が右肩上がりに増加する中、渡り鳥の重要な飛来地である藤前干潟の埋め立て計画を断念し、平成11年2月に「ごみ非常事態宣言」を発表しました。

20世紀中に20%、20万tという大幅なごみ減量目標をたて、市民・事業者との協働による徹底した分別・リサイクルに取り組んだ結果、平成10年度に100万tに迫っていたごみ処理量は平成12年に76.5万tとなり、目標を達成することができました。

平成14年11月には、埋め立て計画を断念して保全した藤前干潟がラムサール条約登録湿地として認定され、平成15年には名古屋市と220万名古屋市民が連名で「自治体環境グランプリ」を受賞しています。その後もごみ減量の取り組みを進め、現在ではピーク時に比べ、ごみ処理量は約4割減、埋立量は約8割減となっています。

来年2月に「ごみ非常事態宣言」20周年を迎えることを契機として、分別・資源化の意識を高め、さらなるごみ減量を進めていきたいと考えています。

平成28年3月に策定した「第5次一般廃棄物処理基本計画」に掲げた「市民・事業者・行政がともに学び、ともに行動し、持続可能な循環型都市を目指します。」という基本理念に基づいて、2R(リデュース・リユース)や分別・リサイクルの取り組みを進めています。以下に主な取り組みについて説明します。

1 広報・啓発

「なごやのごみ減量・資源化ガイド」を作成し、全世界帯に配布しました(平成29年10月)。ガイドは資源・ごみの分け方や出し方について、イラスト等多用し、

わかりやすく伝えるデザインとしています。ごみの減量の意義や効果についても丁寧に説明しています。

学生や外国人等、市政の情報が伝わりにくい市民や、転入が激しく分別ルールが定着しにくいワンルームマンション・共同住宅の居住者等を重点対象に位置づけ、スマートフォン用分別アプリ「さんあ〜る」や若年層向けにイラストを多用した分別啓発の冊子等を活用し、職員が周知・説明する機会を設け、効果的な広報・啓発を展開しています。

「資源・ごみ分別アプリ」さんあ〜る(3R)」は、分別方法を手軽に検索したり、資源・ごみの収集日をお知らせする機能がついたアプリです。



2 レジ袋有料化

市民団体、事業者団体、学識経験者、名古屋市で構成する「2R推進実行委員会」でレジ袋の削減に取り組んでいます。平成21年4月より全市でレジ袋有料化を実施しており、平成30年3月時点で824店舗が協定により有料化に取り組み、レジ袋辞退率は約9割を維持しています。累計のレジ袋削減実績は25億枚以上となっています。

また「レジ袋有料化還元基金」を設置し、事業者よりレジ袋有料化による収益金の寄付を受けつけています。基金は環境保全活動や地域貢献活動などへの還元を活用することとしており、これまでに幼稚園・保育園の園庭の芝生化や緑のカーテン事業などを実施しています。



園庭に芝生を植える園児たち

3 マイボトル・マイカップ運動

レジ袋以外の容器包装削減の取り組みとして、マイボトル・マイカップの普及事業を展開しています。

マイボトル・マイカップのメリットを市民に伝え、持ち歩くことが習慣となるライフスタイルへの転換をめざし、店舗での販売促進キャンペーンやマイボトル・マイカップに飲料を提供する店舗の紹介、無料給水スポットの設置などを行っています。

4 古紙、衣類、布類のリサイクルの推進

地域の集団資源回収活動の実態を把握し、一層の活性化を図るため、実施団体の登録制度を実施し、事業協力を支給するとともに、集団資源回収活動に関する情報提供を行っています。

また、市民団体がスーパーの駐車場等を利用して行うリサイクルステーション活動に対しても、事業協力を支給しています。平成28年度の回収実績は合計で80,657 tとなっています。

5 小型家電・食用油のリサイクル

平成26年から総合スーパー、区役所等市内57か所（平成29年12月末）に回収ボックスを設置し、小型家電を回収し、有用金属等をリサイクルしています。

また、本市は東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の実施する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加しています。

家庭から出る使用済み天ぷら油の回収を市内のスーパー店舗78（平成29年12月末）で実施しています。回収した天ぷら油はバイオディーゼル燃料に精製し、ごみ収集車や市営バスの燃料として使用しています。

6 生ごみの発生抑制

食品ロスを削減するため、「3ない運動（買すぎない、作りすぎない、食べ残さない）」や「30・10運動」などの啓発を行うほか、食品ロス削減に取り組まれている市内の飲食店等を「食べ残しゼロ協力店」として登録し、本市の専用ホームページ「食べ残しゼロ協力店—お皿ぴかぴか！ごちそうさま！—マップ」に掲載して、利用を呼びかけています。

また、ご家庭で消費しない食品を集め、フードバンクを通じて地域の福祉団体や施設、生活に困っている方などに届けるフードドライブを実施しています。

今後も「環境首都なごや」を目指し、「ごみ非常事態宣言」後の大幅なごみ減量を実現した市民・事業者との協働をベースとして、さらなるごみ減量を推進していきたいと考えています。



【シャチのじゅんちゃん】

「資源循環型社会」を目指す名古屋をイメージしたマスコットキャラクターです。名古屋のシンボルである金のしゃちほこが、青い地球を抱いたイメージで作成しました。



「食べ残しゼロ協力店」ステッカー